

# 大洲市総合計画審議会

## 第2回 資料

開催日時 令和7年12月23日（火）14時00分～  
会場 大洲市役所第1別館3階第1会議室

大洲市 総合政策部 企画情報課

## 住民意識調査等の報告について

- アンケート調査結果
- 分野別ワークショップ実施結果
- オンラインプラットフォーム
- 成人・学生ワークショップ（予定）

# 住民意識調査等の報告について

## 住民意識調査等の実施

現計画のまちづくり施策に関する評価や市民の幸福度・生活満足度を把握するためアンケート調査を実施するとともに、基本構想で設定する「まちの将来像」などについて市民の意見を聴くため、ワークショップを実施しています。

## 実施概要

No.	区分	対象者等	実施時期
1	アンケート調査	成人、中高校生、市外転出者、事業所	令和7年9月1日～ (回答期日：10月3日)
2	ワークショップ	分野別、成人、高校生	令和7年10月～
3	オンラインプラットフォーム	市民	令和7年9月～

意識調査の結果  
を受けて…

- ① まちづくりに対する評価と課題の整理
- ② 基本構想の将来像・基本計画の施策として検討・反映

# アンケート調査結果

## アンケート調査の実施

住民の定住意向、市に対する愛着度、暮らしに関する現状、課題などを把握するとともに、「まちの将来像」に対する多様な考えを収集するためにアンケート調査を実施しました。

## 実施内容

No.	対象者	対象者	方法	主な設問	回収率
1	成人	2,500人 ※18歳以上の市民から 無作為により抽出 (世帯から1名のみ)	紙郵送・WEB	定住意向、まちづくり評価、 幸福度・生活満足度、市の将来像 等	42.6%
2	中学生	3年生全員	WEB	市への愛着度、幸福度・生活満足度、 今後の進路、市の将来像 等	78.8%
	高校生	県立高校生全員			36.1%
3	市外転出者	792人 ※18歳以上のR6転出者 全員を対象 (世帯から1名のみ)	紙郵送・WEB	大洲市での暮らしやすさ、転出理由、 市外から見た大洲市の良さ 等	22.3%
4	事業所	100事業所 ※無作為抽出	紙郵送・WEB	事業所の概要、雇用状況、 事業実施に際して必要な支援 等	48.0%

# アンケート調査結果／大洲市への愛着、幸福・満足度

## 大洲市への愛着と暮らしやすさ

調査対象となった全てのグループにおいて、大洲市への「愛着」「暮らしやすさ」とともに、高い水準となりました。

区分	成人	高校生	中学生	転出者
大洲市に愛着がある	83.6%	75.2%	86.5%	—
大洲市は暮らしやすい	74.9%	70.4%	82.1%	79.1%

## 幸福度と暮らしの満足度（10点満点）

区分	全国平均	成人	高校生	中学生
幸福度	6.49点/2024年	6.40点	6.82点	7.05点
暮らしの満足度	6.48点/2024年	5.82点	—	—

### ■ 成人

幸福度では「生活を送るために必要な収入や貯蓄があること」を重視しています。

また、暮らしの満足度では、「近くで食料や日用品が買えない」「災害に対する不安」「近くに病院や診療所がない」ことが不満の主な要因となっています。

### ■ 中高生

幸福度の判断基準として「お金に困らない生活が送れること」を重視する傾向があります。

また、大洲市に住み続ける必要なものとして、「買物などの日常生活が便利なこと」「娯楽・レジャー施設があること」「公共交通機関や道路環境など交通・移動が便利なこと」を挙げています。

# アンケート調査結果／居住意向

## 居住意向

成人の大洲市への居住意向は高い一方、中高生の市外への転出意向は高い結果となっています。

区分	成人	高校生（市内在住）	中学生
これからも住み続けたい	54.3%	13.4%	13.9%
当分は住み続けたい	32.5%	—	—
市外に転出するが将来は大洲市に戻りたい	0.7%	30.4%	34.3%
他の市町に移り住みたい	9.7%	56.3%	51.8%

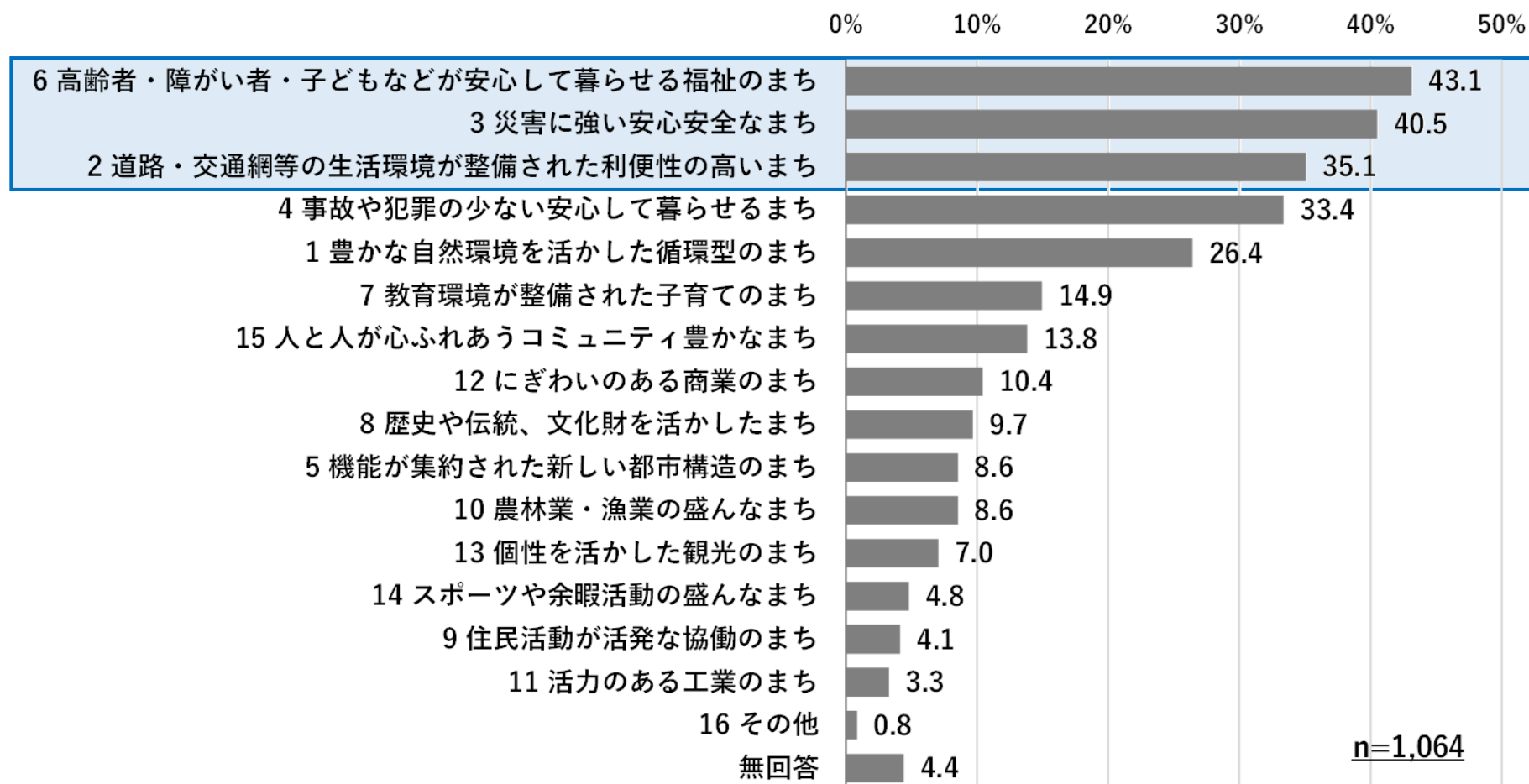
## 他の市町に移り住みたい理由

生活の利便性や都市への魅力、働く場所が少ないが挙げられています。

理由	成人	高校生	中学生
交通や買物などいろいろな面で不便	44.4%／1位	65.9%／1位	55.4%／2位
都会や他のまちに魅力を感じる （【成人】都会で暮らしたい）	14.5%／8位	43.7%／3位	61.5%／1位
自分の好きな仕事がある （【成人】働く場所が少ない）	20.5%／3位	47.6%／2位	33.8%／3位

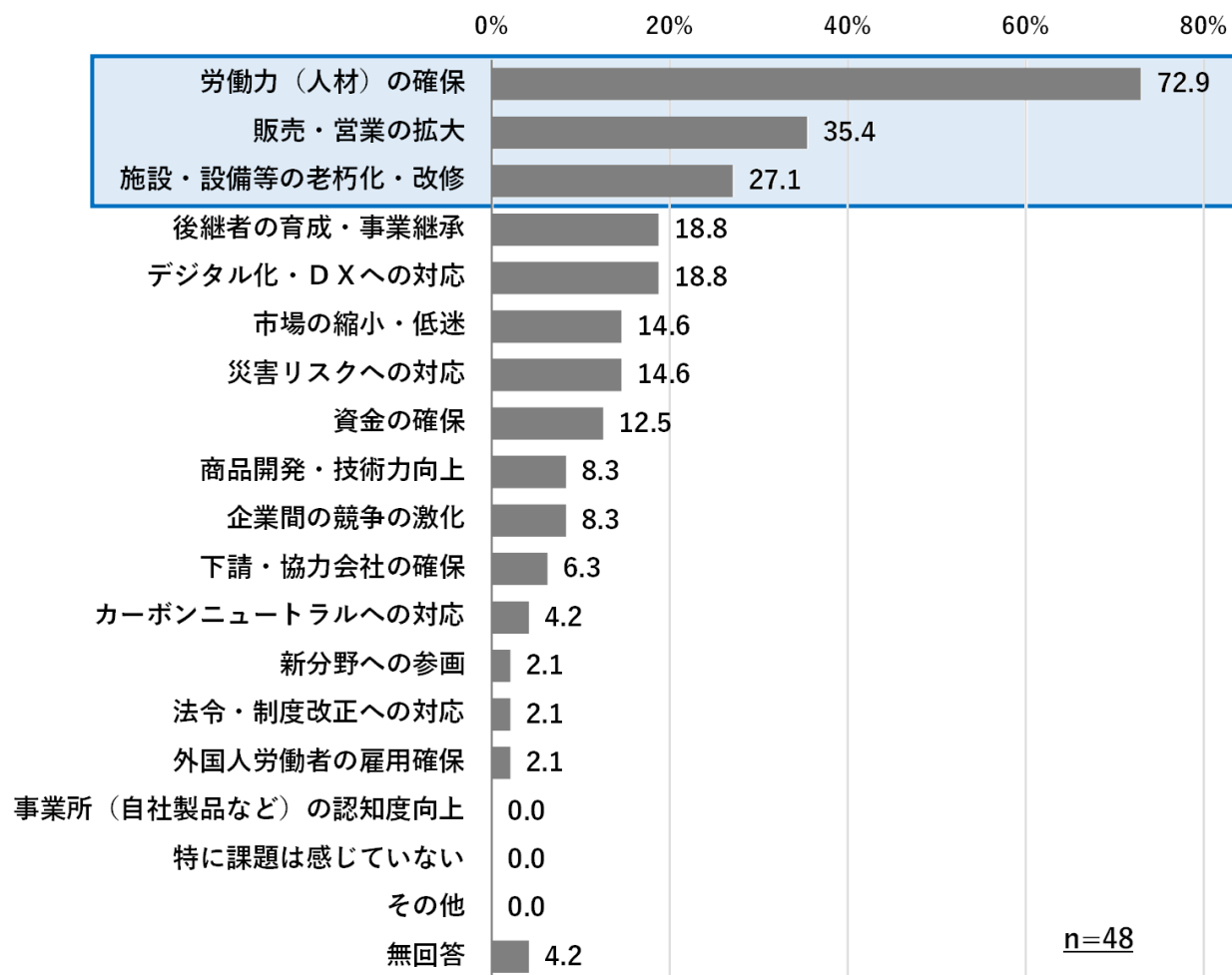
## 将来のまちの理想像

「安全・安心」や「暮らし」に関する項目が高い傾向にあります。  
最も重視されているのは、「高齢者・障がい者・子どもなどが安心して暮らせる福祉のまち」であり、次いで「災害に強い安心安全なまち」が重視されています。



## 課題

現在の課題として、「労働力（人材）の確保」が7割以上と高くなっています。  
 人材確保で苦慮していることは「技術者等を確保できないが高く、今後行政に期待することについて」、「雇用紹介の機会増加」が2番目と高くなっています。



### 人材確保で苦慮していること

- ① 技術者・研究者・資格保有者を確保できない
- ② 賃金引き上げへの対応
- ③ 若年層の離職率が高い

### 人材確保の手段で重視していること

- ① ハローワーク
- ② 自社のHPでの告知
- ③ 求人サイト（マイナビ・リクナビ等）

### 今後行政に期待すること

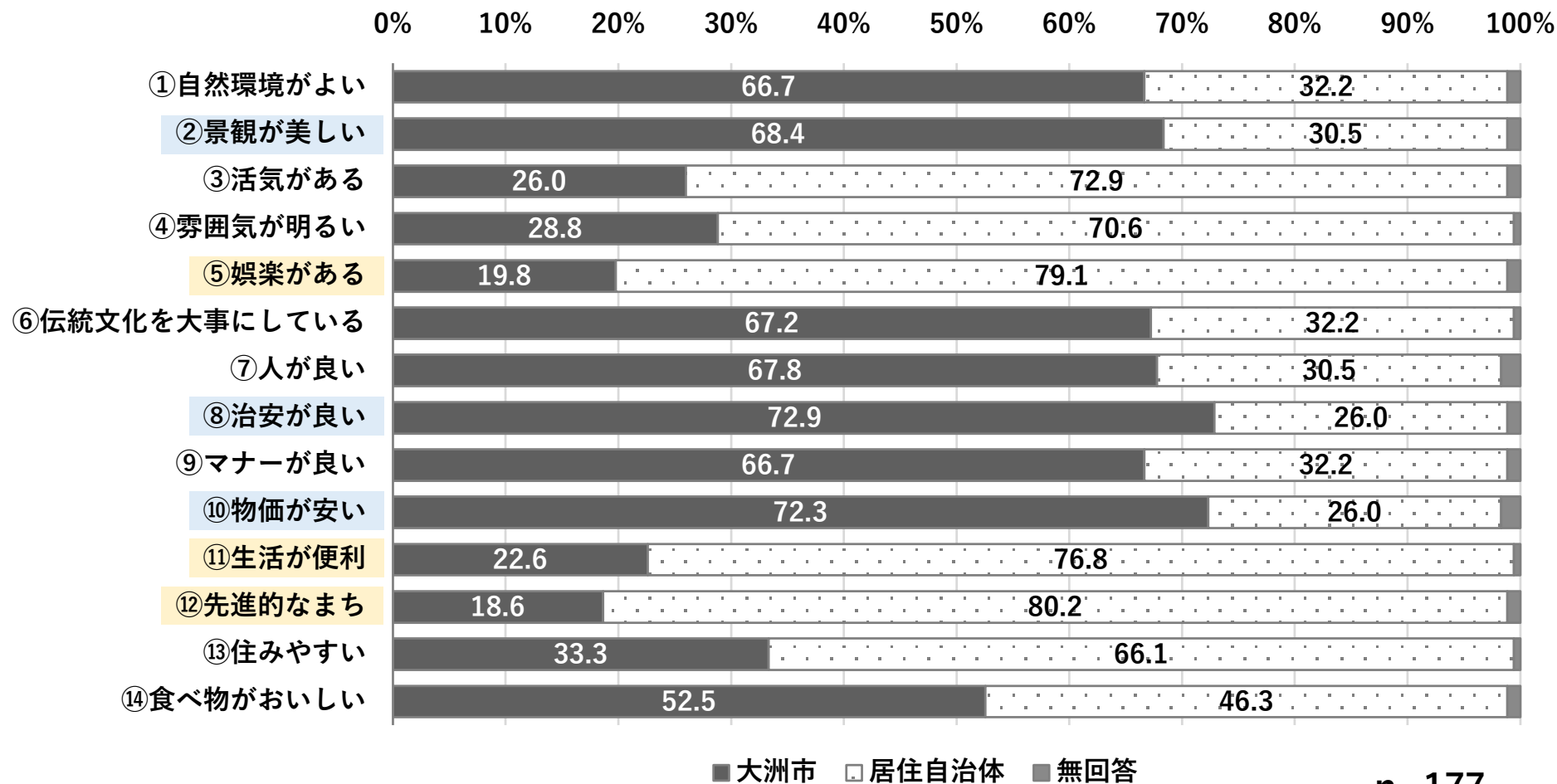
- ① 課税免除等の助成制度の充実
- ② 雇用紹介の機会増加
- ③ 社会基盤・都市基盤の整備
- ③ 地元企業・地域企業への重点支援

# アンケート調査結果／転出者

## 大洲市と転出先自治体との比較

大洲市が良い ①治安がいい ②物価が安い ③景観が美しい

転出先が良い ①先進的なまち ②娯楽がある ③生活が便利



n=177

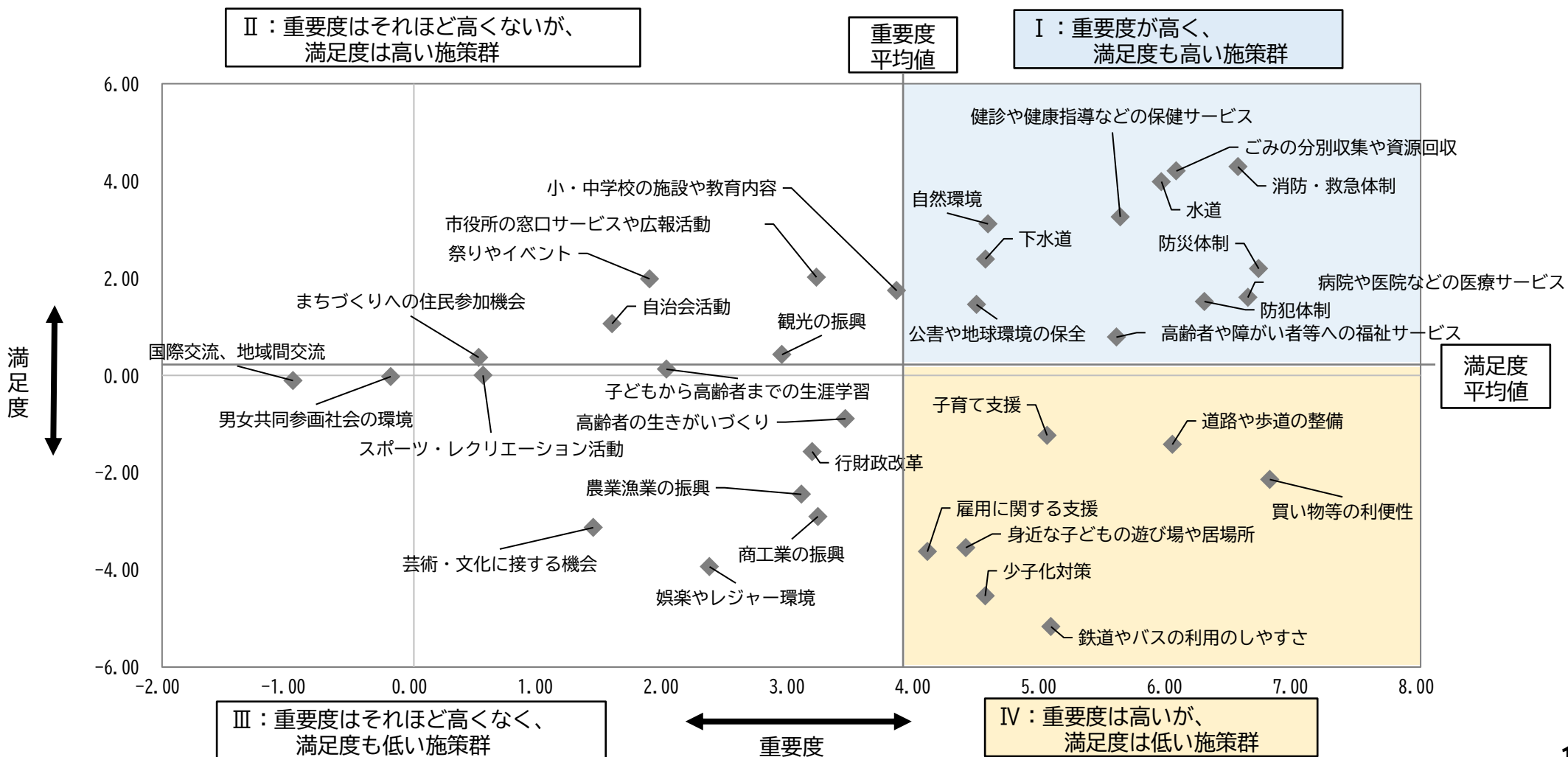
# アンケート調査結果／市の施策評価

## 市の施策評価（成人全体）

市の施策を評価するために、成人アンケート結果からCS分析（重要度と満足度のクロス分析）を行いました。

<回答者の年代構成> n = 1064人

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
60人	100人	131人	118人	268人	382人	5人
5.6%	9.4%	12.3%	11.1%	25.2%	35.9%	0.5%



# 分野別ワークショップ実施結果

## ワークショップの実施

住民参画の一環として、基本構想で設定する「まちの将来像」や「基本政策」について、関係団体で構成する分野別ワークショップを実施しました。

## 実施概要

分野	①市民協働・共生、②健康・福祉、③商工・観光、④農林水産、⑤子育て・教育			
回数	実施日	会場	参加人数	テーマ
第1回	令和7年10月20日(月)	市役所	27人	分野ごとの「目指す姿」を考える
第2回	令和7年11月4日(火)	総合福祉センター	31人	目指す姿を実現するうえでの「課題」を考える
第3回	令和7年11月21日(金)	市民会館	27人	課題の「解決策」を考える

# 分野別ワークショップ実施結果

基本構想で設定する基本政策に対する分野ごとの「目指す姿」等について、住民や関係者が意見やアイデアを出し合いながらワークショップ（3回）を実施しました。

分野	目指す姿	課題	プロジェクト／1年目に取り組むこと
市民協働・共生	希望のあるまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全員参加 (高齢者と次世代とのつながり) (地域とのつながり)</li> </ol>	<u>∞（無限）プロジェクト</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 情報の発信（地域イベント、郷土芸能、食文化）</li> <li>② リーダーの育成（青年団や婦人会の復活）</li> <li>③ 子どもも参加できるイベントの開催</li> </ol>
健康・福祉	いきいきと 自分らしく輝けるまち 大洲市	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健医療福祉の担い手が必要</li> <li>2 社会参加を行い、いきいきと 自分らしく生きる</li> <li>3 安心・安全な医療の充実が必要</li> </ol>	<u>J・S・Aプロジェクト</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 仕事や業種のPRと経済的支援</li> <li>② 異業種交流会の開催</li> <li>③ 地域の病院の必要性を伝える</li> </ol>
商工・観光	うるおい・ うまれるまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育・教育の改善</li> <li>2 ブランド力の向上</li> <li>3 チャレンジしやすい環境づくり</li> </ol>	<u>3つの世界一プロジェクト</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 法被を着るのをやめる</li> <li>② 水筒を配る</li> <li>③ 大洲のお店を紹介するInstagram</li> </ol>
農林水産	農林水産業で 子育てできる 持続可能なまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 農林業に使用できる土地</li> <li>2 人口確保</li> <li>3 収入源</li> </ol>	<u>SAFプロジェクト</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>① チームメンバー集め</li> <li>② 団体設立（NPO法人など）</li> <li>③ モデル団地の選定</li> </ol>
子育て・教育	寄り添い合える 誰もが安心安全なまち	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域で集える場の確保</li> <li>2 連携不足</li> <li>3 人と金の確保</li> </ol>	<u>大洲を知ろう</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 大洲市公式LINEへの登録</li> <li>② 多世代が集まるイベントの実施</li> <li>③ みんなが関わる！！</li> </ol>

# 分野別ワークショップ実施結果【市民協働・共生】

目指す姿

希望のあるまち

込める想い

アンケートの結果を踏まえ、安心安全やコミュニティ、後継者作りといった言葉が出た中で、赤ちゃんから高齢者までが一体となって繋がり、次世代への安心やコミュニケーションの活性化を目指し、次世代に希望を作る想いを込めた。

## <最重要課題>

- 1 全員参加  
(高齢者と次世代とのつながり)  
(地域とのつながり)



## <課題に対する解決策>

- 1 行政・市民を問わず、郷土芸能や食文化などの地域情報を積極的に発信する。
- 2 地域を牽引するリーダーを育成する。  
→ 昭和の青年団や婦人会の復活による人材育成。
- 3 多世代間のつながりを生むため、子どもも参加できるイベントを開催する。  
→ 集まる動機付けとして、食事（カレー作りや非常食を作る防災訓練）が効果的と考える。

プロジェクト

∞（無限）プロジェクト（つながるためのアイデアを考える・伝える）

最初の1年で  
取り組むこと

情報発信を行うだけでなく、自らが地域活動に積極的に参加することから始める。

# 分野別ワークショップ実施結果【健康・福祉】

目指す姿

いきいきと自分らしく輝けるまち 大洲市

込める想い

保健・医療・福祉を中心として自分らしさや地域活性化、日頃の生活などのキーワードが出た中で、100歳になっても地域で支え合い、いきいきと過ごし、自分らしくいることで幸せに元気に輝いて生きていく姿を目指す想いを込めた。

## <最重要課題>

- 1 人材不足のため保健医療福祉の担い手が必要
- 2 社会参加を行い、いきいきと自分らしく生きる
- 3 安心・安全な医療の充実が必要



## <課題に対する解決策>

3つの課題を総合的に解決していくために、異業種交流会を開催し、仕事や業種の情報共有するとともに、深刻な人材不足について包括的に解決に取り組む。

また、自治体から国へ地域医療の重要性・必要性を伝え、病院の維持を図る。

プロジェクト

J・S・Aプロジェクト（J=人材不足、S=社会参加、A=安心安全な医療）

最初の1年で  
取り組むこと

- ① 仕事や業種のPRと経済的支援
- ② 異業種交流会の開催
- ③ 地域の病院の必要性を伝える

# 分野別ワークショップ実施結果【商工・観光】

目指す姿

うるおい・うまれるまち

込める想い

安心や地域への愛着、地域資源、稼ぐことなどのキーワードが出た中で、人口減少が進む中、これまで以上に一人ひとりが稼げるまちにならなければいけないと考え、市民が“うるおい”、子どもや喜び、お金、アイデア、愛着などが“うまれる”まちになってほしいという想いを込めた。

<最重要課題>

- 1 保育・教育の改善
- 2 ブランド力の向上
- 3 チャレンジしやすい環境づくり



<課題に対する解決策>

保育教育や職場環境の改善を図りつつ、「住みたい田舎」「持続可能なまち」「幸福度が高いまち」の3分野で世界一を目指す。

特に、市外在住の大洲出身者が「戻りたい」「帰って来たい」と思える環境をつくることや、市民がネガティブな発言を控えることで大洲ブランドの向上を図る。

プロジェクト

3つの世界一プロジェクト（①住みたい田舎、②持続可能なまち、③幸福度が高いまち）

最初の1年で  
取り組むこと

最初の1年で「調査事業」を実施

- ① 法被を着るのをやめる（例：首都圏等におけるイベントでの着用→例えば着物を着るなど）
- ② 水筒を配る
- ③ 大洲のお店を紹介するInstagram

# 分野別ワークショップ実施結果【農林水産】

## 目指す姿

農林水産業で子育てできる持続可能なまち

## 込める想い

農林水産分野の観点から、市民全体が一体となって魅力ある地域や農村づくりを行い、将来子どもが農林水産業で働きたくなるまちを目指すとともに、農作物の価格安定や生活の水準が保証されるような環境づくりができれば、農林水産業で持続可能なまちづくりができると考えた。

## <最重要課題>

- 1 農林業に使用できる土地
- 2 人口確保
- 3 収入源



## <課題に対する解決策>

- 1 行政と連携し、耕作放棄地や放置林などを団地化し、広い土地を確保する。
- 2 NPO法人などを設立し、土地の所有者と契約して土地の開拓を多くの人で行う。  
※ 新たに一次産業に従事する人を募集する。
- 3 就農者による農作物等の安定供給やブランド化及び林業事業者による安定的な木材産出を目指す。

## プロジェクト

S A F プロジェクト (S=Sea/海、A=Agri/農業、F=Forest/森、S=Safety/安全)

## 最初の1年で取り組むこと

- ① チームメンバー集め
- ② 団体設立 (NPO法人など)
- ③ モデル団地の選定 (農地・林地探し、所有者 (契約相手方) 探し)

# 分野別ワークショップ実施結果【子育て・教育】

目指す姿

寄り添い合える誰もが安心安全なまち

込める想い

子育て・教育分野でキーワードを出していくと、心の安定や生活の安心がないと楽しむことができないと考え、保護者が安心安全に子育てができることを中心に据え、地域で支え合い、高齢者から子どもまで一緒に学び子育てしやすいまちを目指す想いを込めた。

## <最重要課題>

- 1 地域で集える場の確保
- 2 連携不足
- 3 人と金の確保



## <課題に対する解決策>

- 1 個人と発信側の双方が工夫し、情報収集の強化を図る。（最重要項目）
- 2 子どもから大人まで誰でも利用できる複合施設を整備し、人が集まることで連携不足を解消する。
- 3 市内外から人を呼ぶ体験型イベントを実施。  
※ 特定の世代だけでなく、多世代が関わることで歩み寄りやすいまちづくりを目指す。

プロジェクト

大洲を知ろう（もっともっと行動しよう）

最初の1年で  
取り組むこと

- ① 大洲市公式LINEへの登録（情報の収集・発信）
- ② 多世代が集まるイベントの実施
- ③ みんなが関わる！！

# オンラインプラットフォーム

## オンラインプラットフォームの利用

市民と行政がつながる手段として、時間や場所を問わず、WEB上で意見等を投稿できるオンラインプラットフォームを利用し、市民から意見やアイデアを募集するために実施します。

収集した意見等は、庁内検討会議へ共有・提供し、計画策定の検討材料とします。

## 実施内容

システム	D-Agree (https://d-agree.com/site/)
登録者数	52人 (12/12現在)
意見募集 テーマ	①未来に残したい大洲市の「魅力」 ②大洲市が「希望のあるまち」であるためには？ ③「いきいきと輝ける大洲」のために、今できることは？ ④「うまれる」と「うるおい」が溢れるまちであるためには？ ⑤農林水産業で子育てできる持続可能なまち ⑥寄り添い合える誰もが安心安全なまち
意見等 投稿状況	意見数：7件 内 容：観光5件、農業1件、子育て1件

### <意見投稿例>

#### 大洲の秋冬の観光イベントについて

シェアする

× ポスト

大洲の秋冬の観光イベントについて。  
大洲の夏の観光資源は肱川の恩恵（鵜飼や川船遊覧など）と城泊・古民家ホテルなどとの組合せでインバウンド含む観光客の誘致・増大に成功しつつあり大洲にとって大変喜ばしいことですが、寒い時期は肱川の恩恵が使えないため、観光収入は季節変動が大きいのではないですか？

そこで、秋冬～春先にもツアー観光客を連れていけるイベントが必要ではないでしょうか？

例えば「大洲4大神社詣で」などは検討対象になりますか？

八幡神社-大洲神社-少彦名神社-如法寺、（時間があれば-富士山展望台へ）

# 市民ワークショップ（予定）

## ワークショップの実施

総合計画策定の検討材料とするため、全市民を対象としたワークショップを開催します。

また、若い世代の視点や考えを収集するため、高校生を対象としたワークショップを開催する予定としています。

## 実施概要

区分	概要
成人	<u>開催日時</u> 令和8年1月18日 10時00分～12時00分 <u>会場</u> 大洲市役所 2階大ホール <u>テーマ</u> 大洲市の資源と魅力を活かした「取組」
高校生	未定

参加者募集中

回覧

## 大洲市の将来を考える ワークショップ

開催日 | 令和8年1月18日 / 日曜日 10:00～12:00  
会場 | 大洲市役所 2階大ホール  
参加対象 | 市内在住者、市出身者、通勤等で市内の事業所にお勤めの者

テーマ



### 大洲市の資源と魅力を活かした「取組」

現在、大洲市では「第3次大洲市総合計画」を策定しています。  
この計画は、市民の皆さんと一緒に考える“共創のビジョン”です。  
大洲市のこれからのをより良くするために、  
あなたの思いやご意見をぜひお聞かせください！  
みなさんのご参加をお待ちしています。

\* 下記二次元コードからお申込みください  
\* 申込期限 令和8年1月12日 / 月曜日

お問い合わせ先 大洲市役所 総合政策部 企画情報課  
TEL 0893-24-1728  
Mail kikakujouhouka@city.ozu.ehime.jp

申込はこちらから





## 基本構想の構成について

# 1 基本構想の構成案

## 第2次総合計画（現行計画）基本構想

### 第1編 序論

- 第1章 総合計画の策定にあたって  
(策定の背景・位置づけ・役割)
- 第2章 総合計画の構成と期間  
(計画の構成・計画期間)
- 第3章 時代潮流  
(時代の潮流と本市の課題)
- 第4章 大洲市の現況  
(統計・アンケート結果)
- 第5章 今後のまちづくりの課題  
(次期総合計画に向けた課題)

### 第2編 基本構想

- 第1章 まちづくりの基本理念  
(まちづくりの考え方)
- 第2章 まちづくりの将来像  
(将来像・目標人口・土地利用)
- 第3章 基本目標と施策の大綱  
(施策体系・基本目標と施策の大綱)

## 第3次総合計画（次期計画）基本構想

### 第1編 序論

- 第1章 総合計画の策定にあたって  
(策定の背景・位置づけ・役割)
- 第2章 総合計画の構成と期間  
(計画の構成・計画期間)
- ~~第3章 時代潮流~~  
~~(時代の潮流と本市の課題)~~
- ~~第4章 大洲市の現況~~  
~~(統計・アンケート結果)~~
- 第3章 今後のまちづくりの課題  
(次期総合計画に向けた課題)

資料編  
に掲載

### 第2編 基本構想

- 第1章 まちづくりの基本理念  
(まちづくりの考え方)
- 第2章 まちづくりの将来像  
(将来像・目標人口・土地利用・人口  
ビジョン・まちづくり指標)
- 第3章 基本政策  
(施策体系・基本政策)

# 1 基本構想の構成案

## 第3次大洲市総合計画 基本構想の構成

---

### 第1編 序論

第1章 総合計画の策定にあたって  
(策定の背景・位置づけ・役割)

第2章 総合計画の構成と期間  
(計画の構成・計画期間)

第3章 まちづくりの課題  
(課題抽出の流れ・まちづくり課題)

---

### 第2編 基本構想

第1章 まちづくりの基本理念  
(まちづくりの考え方)

第2章 まちづくりの将来像  
(将来像・目標人口【人口ビジョン】・まちづくり指標)

第3章 基本政策  
(施策体系・基本政策)



# 基本構想の構成について

## 第1編 序論

第1章 総合計画の策定にあたって

第2章 総合計画の構成と期間

第3章 現状把握とまちづくりの視点

# 第1章 総合計画の策定にあたって

## 1 策定の背景

---

本市では、平成17年の合併により新大洲市が誕生し、新市建設計画を踏まえて自立に向けた個性的で魅力的なまちづくりを実現するため、「第1次大洲市総合計画」を策定し、新たな未来に向けたまちづくりがスタートしました。

平成29年には、令和8年の将来像として掲げる「きらめくおおず～みんな輝く肱川流域のまち～」の実現に向けて、「第2次大洲市総合計画」を策定し、さらなる発展に取り組んできました。

しかし、この間には、平成30年7月豪雨災害からの復興や新型コロナウイルス感染症に加え、デジタル活用の進展、人間関係や価値観の変化など、急速に移り変わる社会経済情勢への対応が必要となっています。そして、人口減少が深刻化する中で、その抑制または将来の人口規模への適応も求められています。

こうした時代の変化に的確に対応し、大洲市で持続的に豊かなまちと幸せを実感できる暮らしを実現するため、市民・事業者・行政が一体となってまちづくりを進める「共創のビジョン」として、令和9年度を初年度とする「第3次大洲市総合計画」を策定します。

本計画では、これまでよりもさらに飛躍的に個性と魅力を高め、次世代へ確実にバトンをつなぐまちづくりを目指すため、「第3期総合戦略」や「SDGsアクションプログラム」を統合し、さらに将来人口規模を見据えた「人口ビジョン」も内包した計画とします。

# 第1章 総合計画の策定にあたって

## 2 位置づけと役割

本計画は、「大洲市総合計画策定等に関する条例（平成27年大洲市条例第22号）」により本市の行政運営全体の方向性を示す「最上位計画」として位置付けられています。

計画策定の段階から行政だけでなく、市民をはじめ市に関わる様々な人とともに、将来像や方向性を共有し、その実現を目指す「共創のビジョン」となります。

### 総合戦略

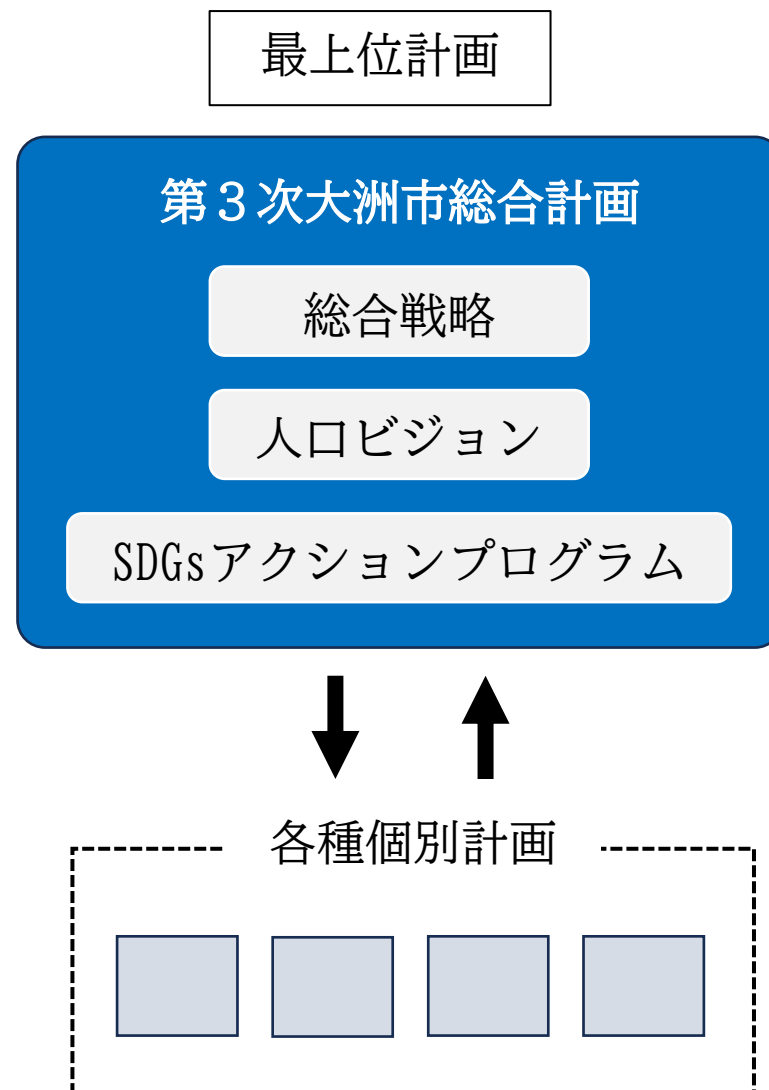
人口ビジョンで示す目標人口を踏まえて、地域の特色を活かした地方創生に取り組むための施策をまとめた計画

### 人口ビジョン

長期的視点で、現在までと今後の人口を整理し、目標人口を示す計画

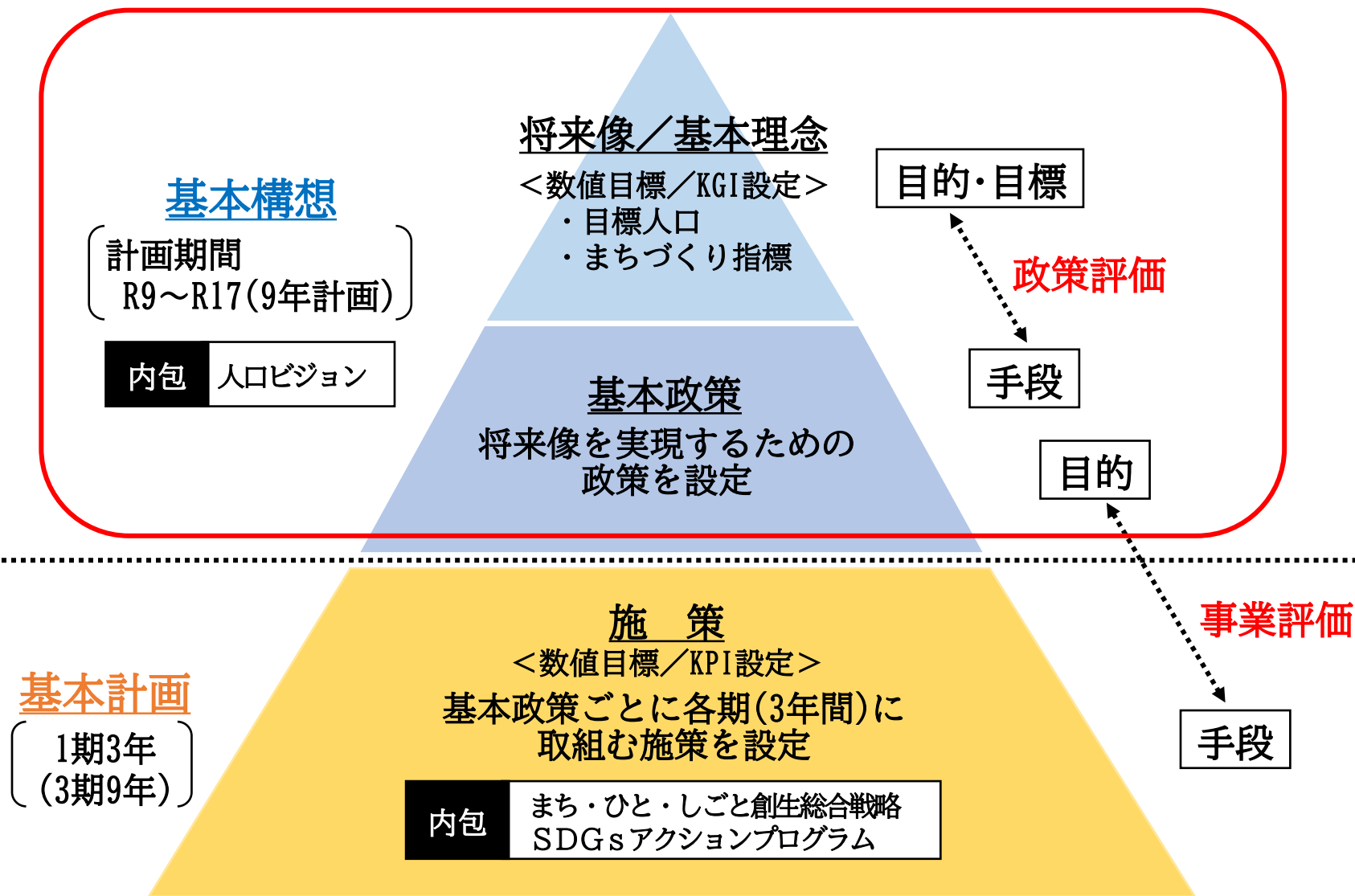
### SDGsアクションプログラム

行政の機能だけでは限られた効果に留まるため、市民と一体となり、目標を達成できるよう「私たちの 私たちによる 私たちのための SDGs」を提言としてまとめた計画



# 第2章 総合計画の構成と期間

## 1 計画の構成

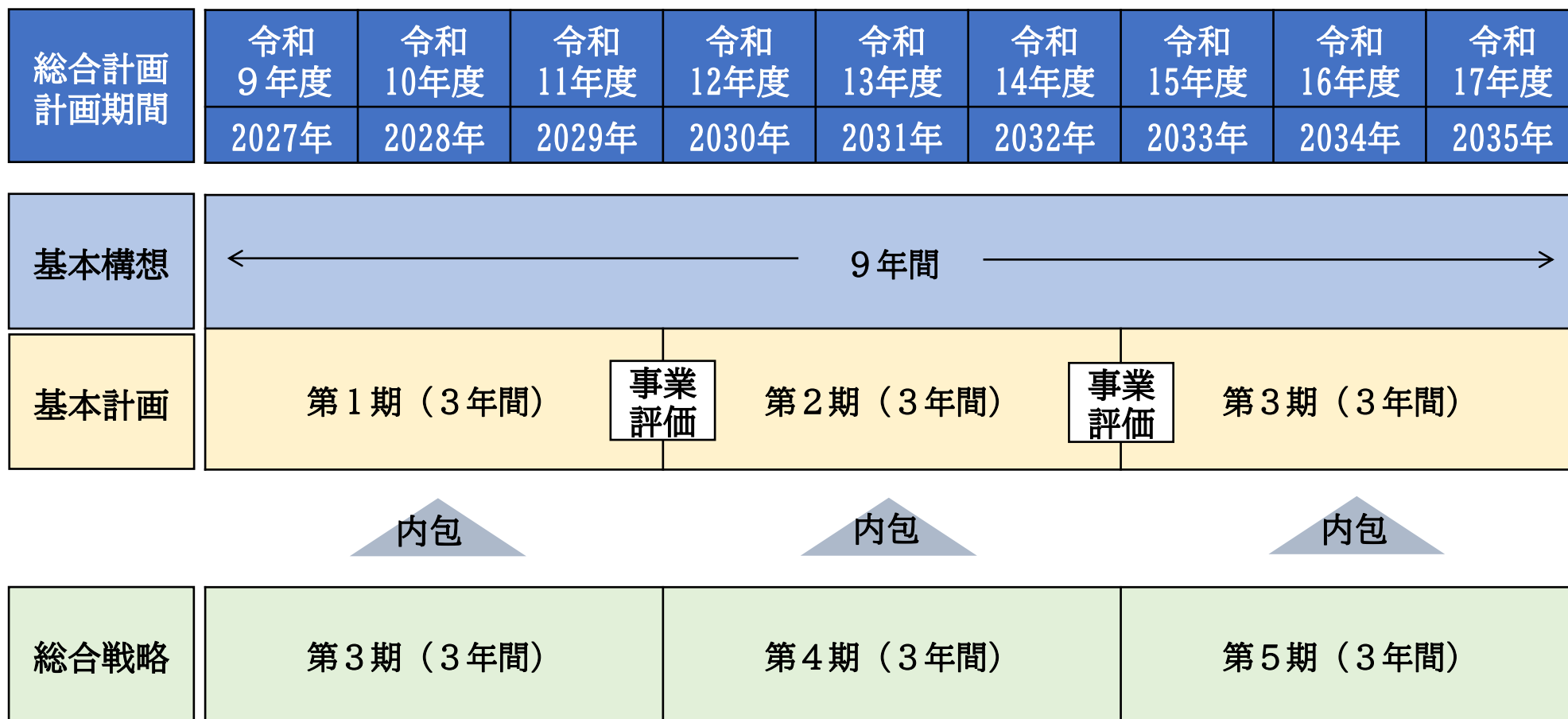


- ・ K G I (重要目標達成指標) …本計画が目指す将来像の実現に向けた、最終的な目標を示す指標
- ・ K P I (重要業績評価指標) …K G I を達成するための中間目標や達成度を示す指標

## 第2章 総合計画の構成と期間

### 2 計画期間

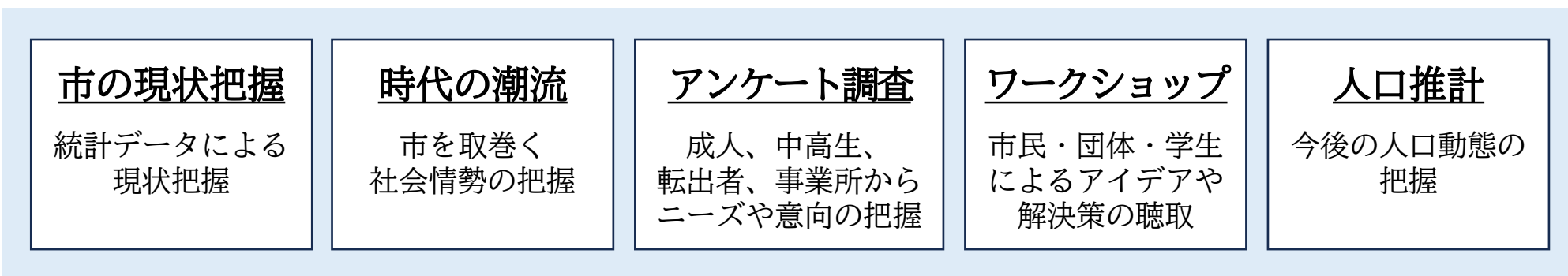
基本構想は9年間とし、基本計画（総合戦略内包）は、3年ごとの3期とします。



※ 総合戦略は第2期までは別冊として策定。第3期より本計画に内包

# 第3章 現状把握とまちづくりの視点

現計画のまちづくり施策に対する評価や市民の幸福度・生活満足度を検証するとともに、今後の方向性を検討するため、市の現状を把握し、各種調査の実施により、住民意識・意向等を整理しました。



## 浮かび上がった課題

少子高齢化に伴う  
避けられない人口減少  
(若者の高い転出意向)



働く世代の  
減少による地域経済の  
縮小への懸念



生活の利便性確保の  
難しさ



若者との  
価値観のずれによる  
地域コミュニティの低下



課題を踏まえた「まちづくりの視点」 作成中

## 基本構想の構成について

### 第2編 基本構想

第1章 まちづくりの基本理念

第2章 まちづくりの将来像

将来像、目標人口、まちづくり指標

第3章 基本政策と施策の体系

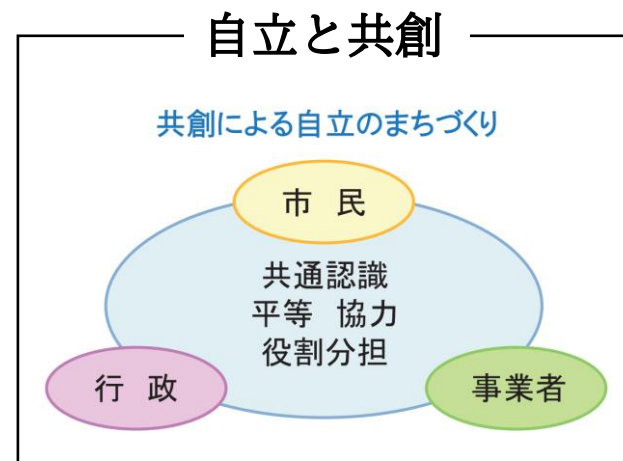
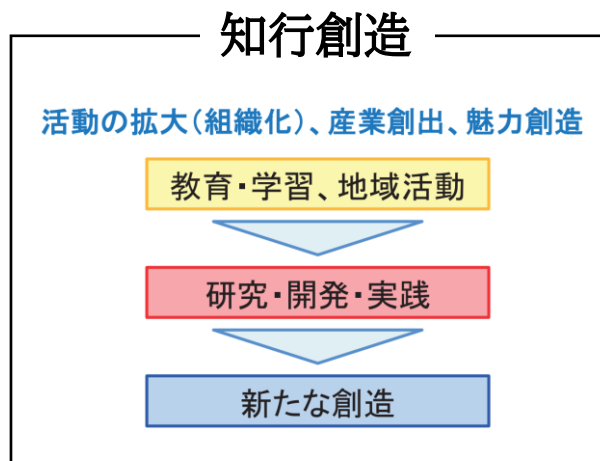
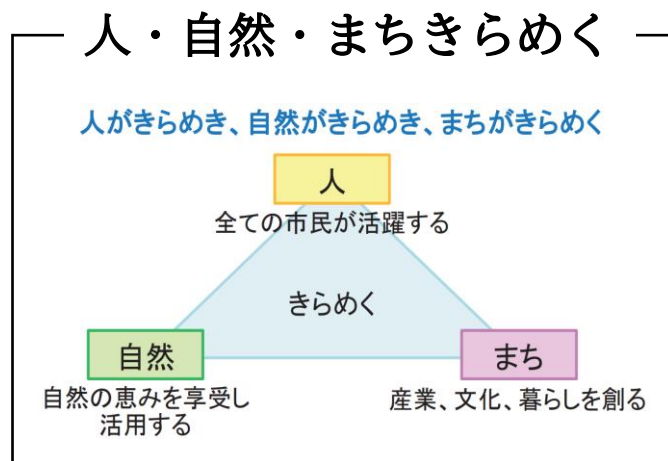
# 第1章 まちづくりの基本理念

## 1 基本理念

基本理念は、本市が目指すまちづくりの根本的な考え方や価値観を示すものです。計画の策定や各種施策の方向性を決定する際の指針となり、行政、住民、事業者など、すべての関係者が共有すべき共通の理念として位置づけるものです。

3次計画 作成中

(現計画)



## 第2章 まちづくりの将来像

### 2 将来像

---

将来像は、基本理念に基づき、本市が目指す将来的なまちの姿を示したもので、目標とする方向性や理想像を具体的に描いたものです。

行政や住民、事業者が共通の目標として共有し、計画の各施策や取組の方向性を定める指針となります。

3次計画 作成中

---

(現計画)

きらめくおおず

～みんな輝く肱川流域のまち～

主体的に学び実践を通して新たに創造する“知行創造”の精神のもと、“自立と共創”のまちづくりに取組み、豊かな自然に囲まれて暮らす市民一人一人が幸せを実感し“きらめく”ことにより、本市全体が“きらめく”未来の姿を表しています。

## 第2章 まちづくりの将来像

### 3 目標人口

目標人口は、大洲市が将来にわたり安定的かつ持続可能に発展するために設定する人口の指標となります。

目標人口 ※事務局提案	30,000人
----------------	---------

※ 目標達成年 令和17年（2035年）

※ 目標人口の算出方法は、人口ビジョン改定案（P36以降）参照

#### （現計画）

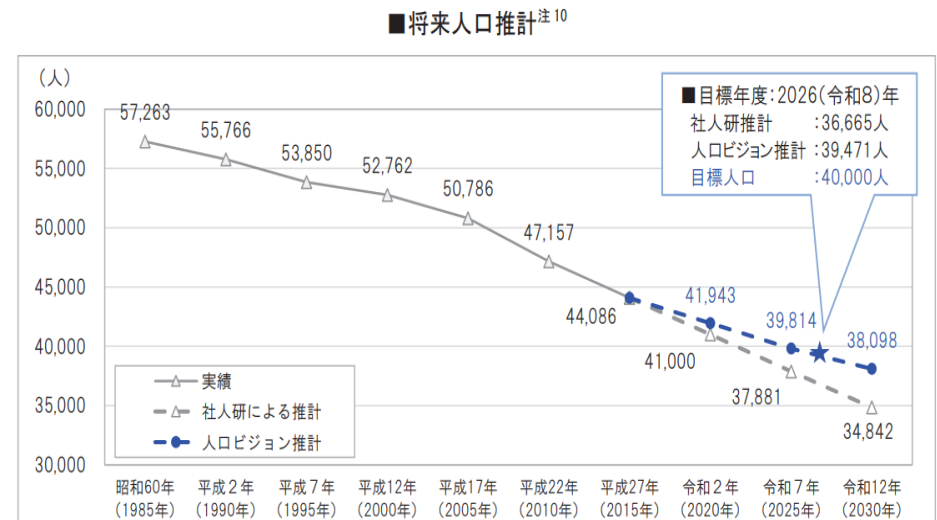
##### ① 将来人口の予測

人口の推移と社人研での推計値

##### ② 目標人口

総合計画と総合戦略で掲げる各施策が連携を図りながら取り組むことで、着実な成果をあげ、**令和8年時点で目標人口40,000人**を目指す。

※ 大洲市人口ビジョンの令和8年人口（39,471人）に  
準拠



## 第2章 まちづくりの将来像

### 4 まちづくり指標

本市が目指す将来像や基本政策の達成状況を把握するために設定する重要な評価指標となります。

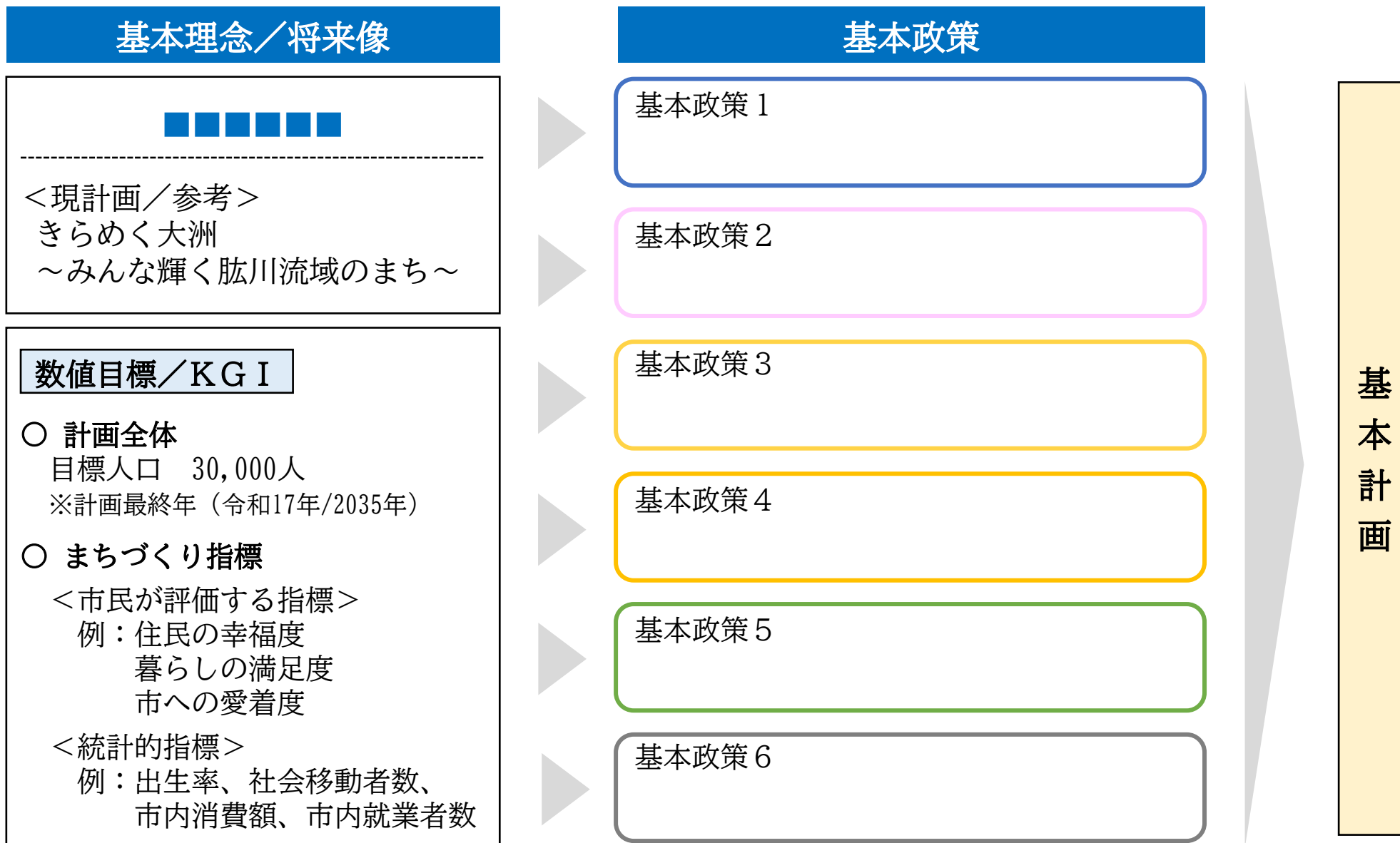
数値目標（KGI※）を定めることで、計画の進捗や成果を確認でき、施策の効果や課題を明確にするとともに、行政と市民が共通の目標に向かって取り組むために設定します。

区分	内容	指標（具体例）
市民が評価する指標	将来像の実現に向けた取組の成果を、市民が日々の生活を通じた視点から評価するための指標	・住民の幸福度 ・暮らしの満足度 ・市への愛着度 など
統計的指標	人口動態や経済活動など客観的データを基に、計画の進捗や成果を定量的に測定するための指標	・出生率 ・社会移動者数 ・市内における消費額 ・市内での就業者数 など

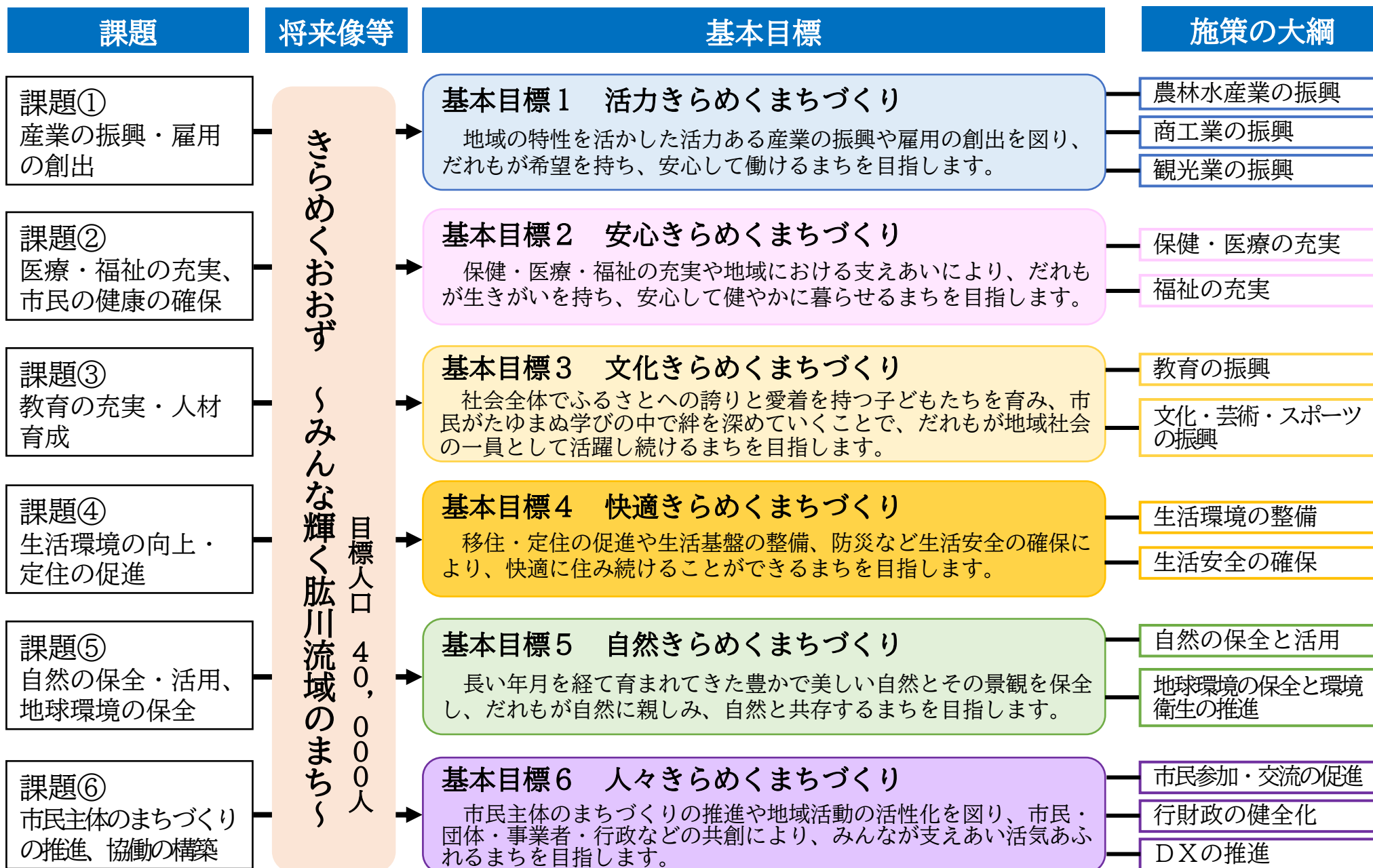
※ KGI（重要目標達成指標）…本計画が目指す将来像の実現に向けた、最終的な目標を示す指標

# 第3章 基本政策

## 1 基本構想の体系と基本政策



# 参考 | 現（第2次）計画の基本構想の体系





大洲市人口ビジョンの  
改訂について

# 現在の人口ビジョン

「大洲市人口ビジョン」は、人口の現状分析を行い、人口に関する認識を市民と市が共有し、今後、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すために平成27年度に策定したもので、[「大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略」](#)を始めとする各種計画において、[目標の設定や施策立案を行ううえでの重要な指標となるものです。](#)

## 目指すべき将来の方向性

---

- ① 雇用の場を確保し、新しいひとの流れをつくる
- ② 元気で安全・安心に暮らせる地域を守る
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

## 将来の方向性の実現に向けた数値目標

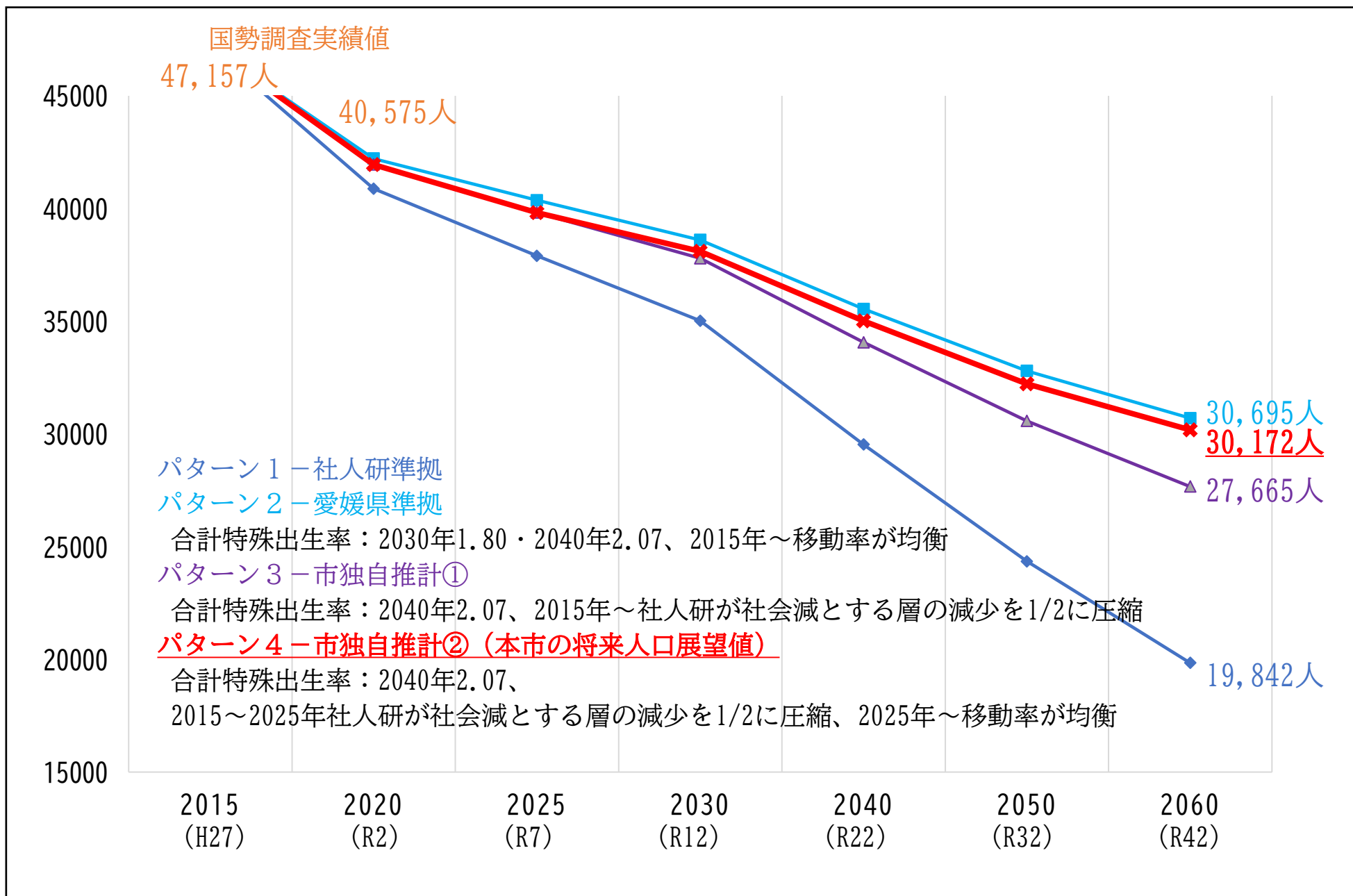
---

- ▶ 雇用の創出、安全な地域づくり等により、進学層やファミリー層等の転出を抑制し、就職やUターンによる転入を増大する。  
(転出超過の半減、転入・転出の均衡を目指す。)
- ▶ 高い出生率を活かし、結婚・子育ての希望をかなえ、合計特殊出生率を向上させる。  
(2040年に合計特殊出生率2.07程度を目指す。)

2060年(令和42年) 将来人口展望

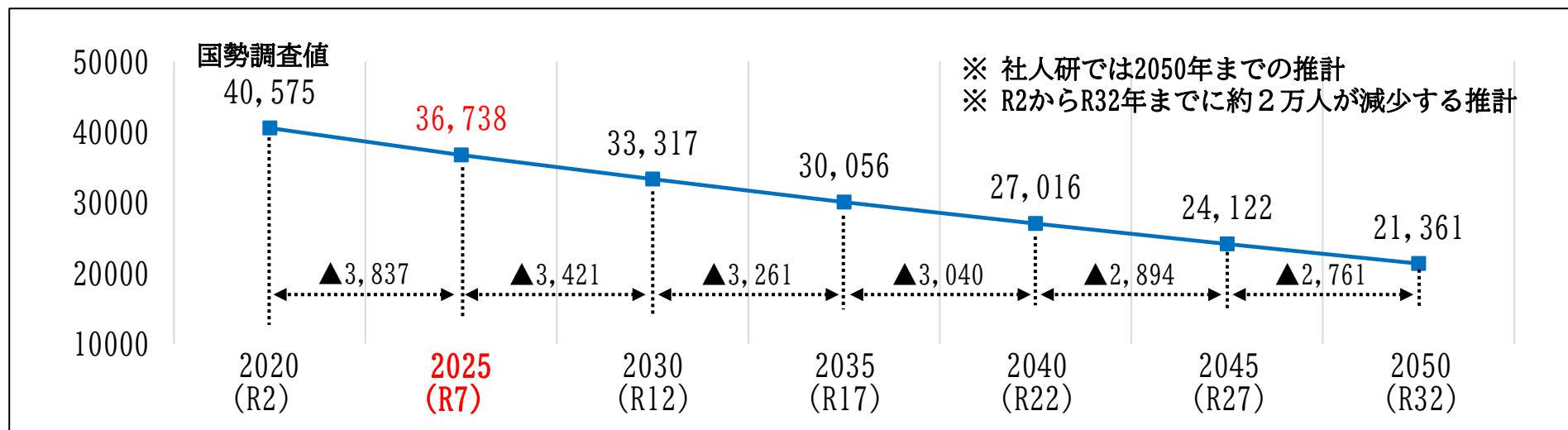
30,000人

# 現在の人口ビジョンにおける推計値／平成27年度策定



# 国立機関・愛媛県における大洲市の推計人口

## 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）推計人口／2023年



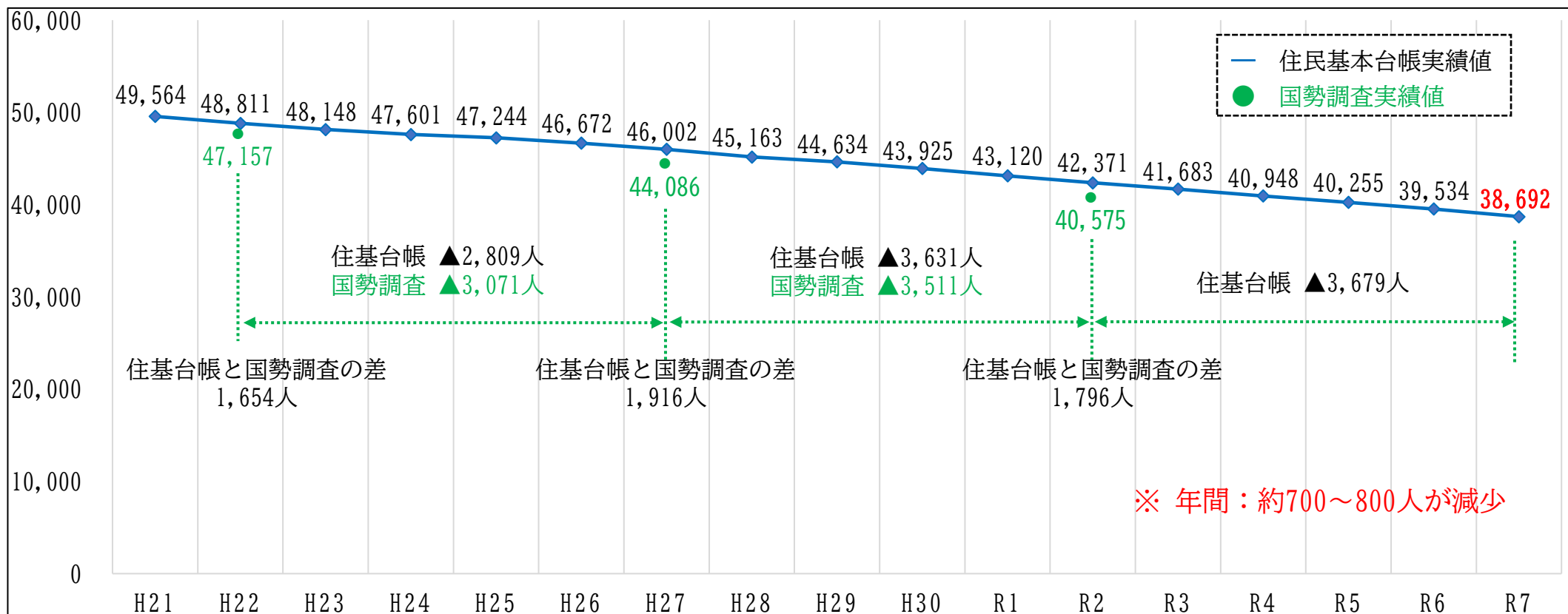
## 愛媛県将来推計人口／令和4年度

	人口			うち、15～29歳人口			
	2020年	2060年	増減率	2020年	2060年	増減率	
愛媛県	1,334,841	783,547	△41.3%	156,470	73,922	△52.8%	
大洲市	40,575	16,189	△60.1%	4,020	1,077	△73.2%	
参考 近隣自治体	宇和島市	70,809	25,668	△63.8%	6,346	1,452	△77.1%
	八幡浜市	31,987	10,890	△66.0%	2,681	625	△76.7%
	西予市	35,388	11,816	△66.6%	2,729	655	△76.0%

# 大州市の人口推移／住民基本台帳から（各年3月末時点）

## 住民基本台帳と国勢調査の推移等

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
人口	49,564	48,811	48,148	47,601	47,244	46,672	46,002	45,163	44,634	43,925	43,120	42,371	41,683	40,948	40,255	39,534	38,692
前年比	-805	-753	-663	-547	-357	-572	-670	-839	-529	-709	-805	-749	-688	-735	-693	-721	-842
国勢調査		47,157					44,086					40,575					
前回比		-3,629					-3,071					-3,511					



# 人口ビジョンの改訂／設定方法・目標人口

## 目標人口等の設定

人口ビジョンの改訂にあたっては、市の独自推計及び社人研準拠の両面から、下記の2パターンにより推計人口（自治会単位での推計も予定）を算出します。

また、人口ビジョンの推計期間及び目標人口は、現行の人口ビジョンとの比較が可能となるよう、2060年までを対象期間とし、目標年も同年で設定します。

## 目標人口 案

### 大洲市独自推計①／目標人口 25,000人

- 推計方法 今後、市が取組む施策の拡充や新たな取組の実施により、**2030年までに合計特殊出生率2.05及び社会移動率の均衡**を実現することを前提として、社人研推計をベースに、愛媛県の推計人口に基づき補正を行った推計

### 大洲市独自推計②／目標人口 20,000人

- 推計方法 今後、市が取組む施策の拡充や新たな取組の実施により、**2050年までに合計特殊出生率2.05及び社会移動率の均衡**を実現することを前提として、社人研推計をベースに、愛媛県の推計人口に基づき補正を行った推計

### 参考 | 社人研準拠推計／2060年 16,359人

- 推計方法 社人研の推計値をベースに、愛媛県の推計人口に基づき補正を行った推計  
※ 社人研推計は2050年まで・2060年推計値は働きようせいが社人研の推計を踏まえて算出

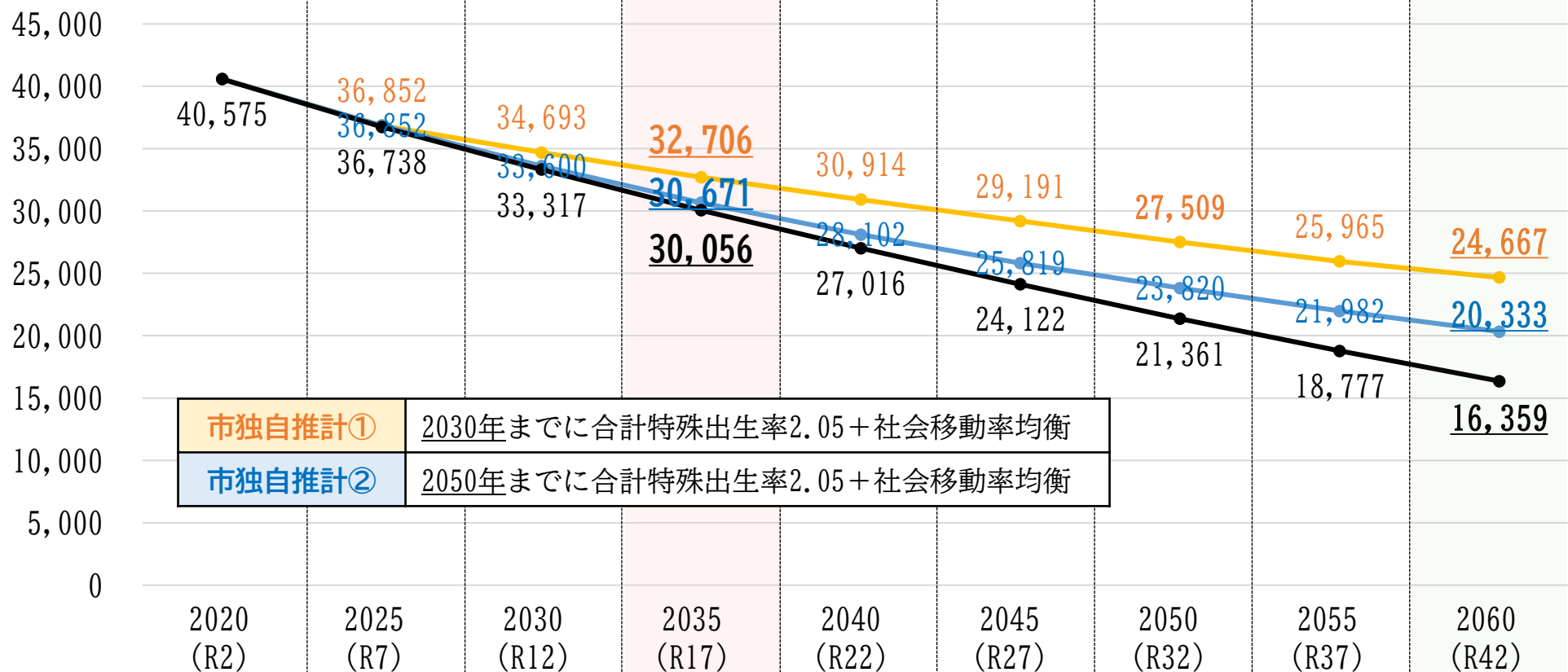
※ 平成27年にまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少対策を講じてきたが、最新の人口推計では現在の人口ビジョンの推計を上回るペースで減少しています。  
そのため、現在と同じ施策を継続しても現実的には16,000人程度なると推計されます。

# 人口ビジョン改訂／推計人口

3次総合計画  
目標達成年

人口ビジョン  
目標達成年

	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)	2055 (R37)	2060 (R42)
市独自推計①	40,575	36,852	34,693	32,706	30,914	29,191	27,509	25,965	24,667
市独自推計②	40,575	36,852	33,600	30,671	28,102	25,819	23,820	21,982	20,333
社人研準拠	40,575	36,738	33,317	30,056	27,016	24,122	21,361	18,777	16,359



市独自推計①	2030年までに合計特殊出生率2.05 + 社会移動率均衡
市独自推計②	2050年までに合計特殊出生率2.05 + 社会移動率均衡

目標	① 33,000人
人口	② 30,000人

目標	① 25,000人
人口	② 20,000人